

**2020年12月期（第52期） 第2四半期
決算説明資料**

ジャパンシステム株式会社
(証券コード9758)

目次

- 2020年12月期 第2四半期 業績概況
- 2020年12月期 業績予想
- 2020年12月期 IRカレンダー

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ 全社業績

一部の事業においては新型コロナウイルスの影響を受けながらも、主力事業領域、既存顧客領域においてはコロナ禍に適応し、取引領域の拡張を図ることで売上・利益共に前年同期比での成長を確保。

一方、RPA・BI・ERP製品を軸とする成長戦略領域においては、持続的な成長に向けての新規顧客受注・新規商談の創出力といった点で、Withコロナによる環境変化や市場変化への適応課題を認識。

(単位：百万円)	2019年12月期 第2四半期 (累計)	2020年12月期 第2四半期 (累計)	増減額	増減(%)
売上高	4,918	4,978	60	1.2
営業利益 (営業利益率)	313 (6.3%)	370 (7.4%)	57	18.2
経常利益	332	380	48	14.2
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	212	308	96	45.1

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ セグメント別業績

(単位：百万円)		第2四半期（累計）		
		2019年12月期	2020年12月期	増減（%）
全社	売上	4,918	4,978	1.2
	営業利益	313	370	18.2
システム イングレーション	売上	4,454	4,515	1.4
	セグメント利益	266	300	12.7
画像処理 ソリューション	売上	465	463	▲0.4
	セグメント利益	45	69	50.5

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ 事業別概況

-システムインテグレーション事業 (各事業領域の売上高には第1四半期に計上したセキュリティ事業の売上を含まず)

・ 公共事業領域

行政経営支援システム「FAST」の既存顧客の更新、新規顧客の本稼働等を万全に実施したことに加え、昨年末より販売を開始した「RPA for FAST」の納入・稼働による収益化も含めて、“公共事業”における売上高は1,387百万円（前期比1.7%増）と増収を実現。一方、一部の顧客自治体において新型コロナウイルス対策のための予算見直しや新規商談の延伸等の動きがでており、今後の成長戦略のための受注活動への影響・制約が発生。

・ エンタープライズ事業領域

中期経営計画の戦略領域として位置付けたRPA・BI・ERP製品を軸とする新規ビジネスの創出活動においては、セミナーなどの販促活動自粛や商談延伸などの影響により新規商談の創出や受注活動に制約・遅延が発生。

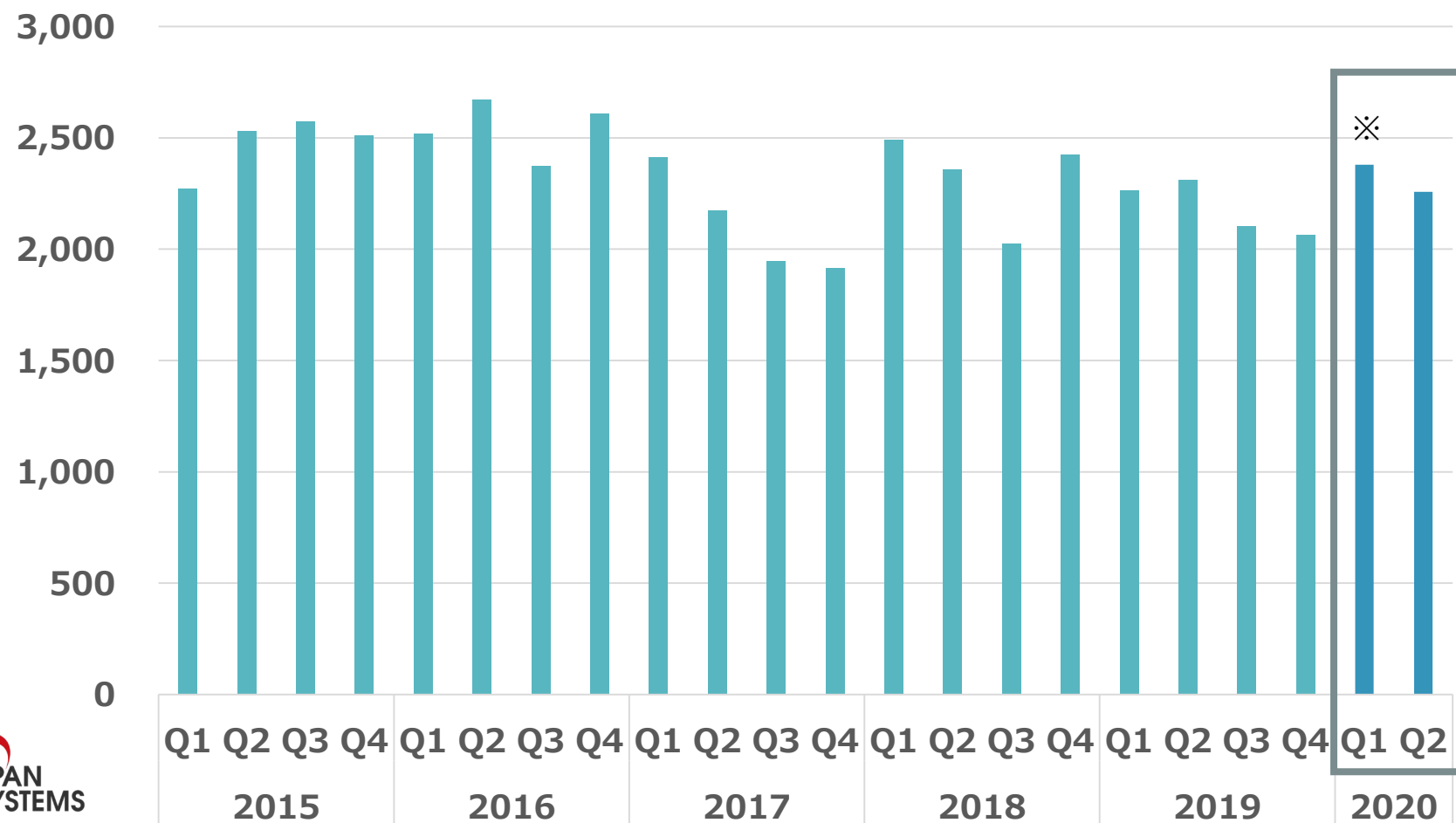
一方、既存顧客領域においては、主要取引先であるNTTデータ社との取引領域の拡張や、その他民間顧客案件においても、持ち帰り型・請負型へのシフトや新領域への拡張を順調に進めたことで、“エンタープライズ事業”全体の売上高は、3,012百万円（前期比6.1%増）となり増収を確保。

-画像処理ソリューション事業

メディカル事業においては、主要顧客の医療機関が第2四半期累計期間を通して新型コロナウイルス対策に追われたことなどから、受注・売上・利益は前期実績から大きく減少。ネットワークカメラ事業においては、自社SW製品を主体とする大型案件の完成納品により売上・利益が大きく増加。その結果、画像処理ソリューション事業の売上高は463百万円（前期比0.4%減）と前期比微減。

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ 四半期受注額推移 (画像処理ソリューション事業を除く) (単位：百万円)



上期受注額推移 (億円)

2015年	48.0
2016年	51.9
2017年	45.8
2018年	48.4
2019年	45.7
2020年	46.3

※2020年Q1までの受注額にはセキュリティ事業の受注額を含む。

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	利益影響額
売上高	4,918	4,978	+60
売上原価	3,458 (70.3%)	3,521 (70.7%)	▲63
売上総利益	1,460 (29.7%)	1,457 (29.3%)	▲3
販管費	1,146 (23.3%)	1,086 (21.8%)	+60
営業利益	313 (6.4%)	370 (7.4%)	+57
経常利益	332 (6.8%)	380 (7.6%)	+48
特別利益	—	99	※+99
法人税等	119	170	▲51
四半期純利益	212 (4.3%)	308 (6.2%)	+96

※セキュリティ事業の譲渡に伴い、譲渡価額から関連費用等を差し引いた純額99百万円を特別利益として表示しています。

() 内は売上高に対する割合

2020年12月期 第2四半期 業績概況

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2019年12月期 期末	2020年12月期 第2四半期末	増減額
流動資産	5,505	5,259	▲246
固定資産	1,556	1,588	+32
資産合計	7,061	6,848	▲213
流動負債	1,614	1,243	▲371
固定負債	58	58	—
負債合計	1,672	1,301	▲371
純資産合計	5,388	5,546	+158

2020年12月期 業績予想

■ 2020年12月期 通期業績予想

() 内は通期を100%とした進捗率

(単位：百万円)	2019年(実績)			2020年	
	上期	下期	通期	上期(実績)	通期(予想)
売上	4,918 (49.3%)	5,055 (50.7%)	9,973	4,978 (49.5%)	10,057
営業利益	313 (40.2%)	465 (59.8%)	778	370 (46.3%)	800
経常利益	332 (41.4%)	470 (58.6%)	802	380 (47.5%)	800
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	212 (40.8%)	308 (59.2%)	520	308 (64.2%)	480

下期に臨んでは、成長戦略分野の受注および新規商談創出力の強化・拡充にフォーカス

中期経営計画の基本戦略進捗状況の 検証分析・PDCAを回し、以下の各施策の強化と徹底に取り組む

- 成長戦略領域：市場変化・ニーズ変化に即時適応したRPA・BI・ERPの提供ラインナップの拡充と見直し
- 公共事業領域：新規FASTユーザの獲得に向けた提案体制の強化、
行政のデジタル化・インフラ・クラウド・Withコロナ対応需要の取り込み加速
- エンタープライズ事業領域：主要顧客との領域拡張・常駐型から持ち帰り型へのシフト、
クラウド・Withコロナ対応需要の取り込み加速

2020年12月期 IRカレンダー

■ 2020年12月期 IRカレンダー

2020年 11月中旬 第3四半期 決算短信発表

2021年 2月中旬 2020年12月期 決算短信発表

2月中旬 2020年12月期 決算説明資料HP掲載

3月下旬 第52期 定時株主総会開催

将来の見通しに関して

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しているため、リスクや不確実性を含んでおり、当社がその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績は、経済環境の変化等の様々な要因により将来の見通し等と異なる場合があります。

(IRお問合せ先)

ジャパンシステム株式会社 IR担当 e-mail : ir_info@japan-systems.co.jp